

繋ぐ伝統芸能のバトン

～大人も子どもも みんなで楽しむ集落行事～

天城町西阿木名民謡保存会 仲 恵

1 はじめに

♪ かどうぐちぬ うたや ぶれいながら やしがよ～ ♪ 集落に響き渡る子どもたちの元気な唄声と楽しい踊り。今日は、毎年恒例の伝統行事「ムチタボレ」の日です。子ども会と青年団と民謡保存会と一緒に集落中を回り、豊年を祝います。

かつては、島中の集落で行われていた豊年行事である「ムチタボレ」が時代とともに消えていく中で、私たち西阿木名集落では、しっかりと受け継がれています。その原動力となっているのが民謡保存会と子ども会の活動協力です。

2 活動趣旨

各地区に唄い踊り継がれてきた伝統芸能が時代の流れ、社会の変化や担い手の高齢化などによって、その文化が存続の危機にあります。

我が西阿木名集落では、平成 24 年にそれまでに組織されていた民謡保存会を再結成して、集落に残る貴重な伝統芸能を継承すべく活動を再開しました。

3 活動概要

(1) 常時活動

毎月第 2・4 木曜日に唄遊び会を催し、唄の練習と会員の交流を深めています。

(2) 西阿木名小中学校での継承活動

年間計画で決められた日程で、子どもたちへの指導を行っています。

(3) 集落行事での役割

集落で催される祝いの宴では、子どもたちを交えて一緒に盛り上げていきます。

(4) 各種行事への参加

町や地区の行事などの出演依頼には積極的に応じています。

4 奄美パーク主催行事への出演

- ・ 平成 25 年 2 月 16 日、「島々だより」に出演。集落の合同歳の祝いだけで演じられてきた「ハマヤキトーシ」を披露しました。
- ・ 令和 4 年 10 月 29 日、奄美パーク開園 20 周年記念奄美群島芸能の祭典「島々の饗宴」に出演。子どもたちがハマヤキトーシを演じました。

5 活動組織

会員は現在、40代～80代までの14名で、会長、会計係、連絡係を置いています。

6 活動計画

月 日	行 事 名	場 所
令和6年 8月 15日	盆踊り	お悔やみで中止
令和6年 9月 17日	十五夜踊り	地区振興センター
令和6年 9月 22日	ムチタボレ	集落全域
令和6年 10月 18日	西阿木名小中学校学習発表会	西阿木名小中学校
令和6年 11月 3日	天城町町民文化祭	天城町防災センター
令和6年 11月 30日	第25回アカギの木コンサート	西阿木名小中学校校庭
令和7年 1月 3日	西阿木名集落合同歳の祝い	西阿木名地区振興センター
その他	・ 月2回の定例唄遊び会 ・ 西阿木名小中学校での定期的な継承活動 ・ 各種イベント等への参加	

7 活動状況

月2回の定例唄遊び会では、お茶受けやつまみなどを持ち寄り、活動について話し合ったり、意見を出し合ったりしながら交流を深めています。そして、それぞれの行事に合わせた唄や踊りを練習します。

集落行事においては、集落及び子ども会、青年団や地域女性団体と連携を取り合いながら進めています。



ムチタボレで集落の家々を周る様子



阿木名風土記を踊る様子（学習発表会）



写真左：県指定無形民俗文化財の認定証伝達（町民文化祭）

写真右：ハマヤキトーシの様子（集落合同歳の祝）

8 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 天城町指定文化財保持団体の認定（令和元年6月7日）

西阿木名集落における伝統芸能群として「正月唄、あぎな棒踊り、ハマヤキトーシ、立踊り、ムチタボレ、田植え唄」の六つの芸能があり、これらの多様な伝統芸能が一つの集落で伝承されていることは、非常に貴重であることから天城町指定無形民俗文化財に指定されました。

- ・ 「ムチタボレ」が鹿児島県指定無形民俗文化財に指定（令和6年5月7日）

徳之島の餅もらい行事（「ムチタボレ」）を行っている5集落（徳之島町の手々・花徳・尾母，伊仙町の犬田布，天城町の西阿木名）が鹿児島県無形民俗文化財に指定されました。

(2) 課題

- ・ 会員の加入促進

少子高齢化の波は確実に忍び寄り，我が民謡保存会にとっても今後の担い手の確保が重要な課題です。大人も子どもも，老いも若きもみんなで楽しめる集落行事と継承活動を続け，会員の加入促進を図っていききたいと考えています。

- ・ 音源や映像の記録

貴重な唄や踊りを正しく継承していくためには，唄の歌詞や音源，映像の記録が必須であると考えられるので，記録として保存し伝統芸能の灯を絶やさないようにしていきたいと思ひます。

9 おわりに

西阿木名集落に受け継がれている，他に類を見ない様々な伝統行事や芸能を継続させていくためには，私たち民謡保存会の果たす役割は大変重要です。今後も，社会情勢の変化に合わせてながら集落の各種団体や子ども会と連携し，持続可能な活動を通して伝統文化を守り繋げていきたいと思います。

また，私たち大人が楽しみながら活動することで，故郷を愛し，誇りに思う子どもたちが育ってくれることと信じています。

島口つこわーでー

年に一度、みんなで楽しく島口を使う日・学ぶ日

伊仙町文化協会事務局 松田 博樹

1 はじめに

大島地区文化協会では近年、衰退しつつある奄美方言を保存・継承していくことを目的として、平成19年から2月18日を大島地区の「方言の日」とさだめています。伊仙町文化協会は、「島口つこわーでー」の開催を通じて、島口（方言）の保存・継承を推進することを趣旨として、これまで11回開催しております。

2 概要

伊仙町でも平成28年12月に、2月18日を「島口の日」とし2月を「島口月間」と決めました。町民が「シマグチ」に触れる機会を提供する場として、親しまれる大会を目指しています。

3 島口川柳の募集

- ・教育委員会の協力を得て毎年冬休みの宿題として島口川柳を募集
- ・小学校8校，中学校3校
- ・小学校低学年，中学年，高学年，中学生の部から最優秀賞を選考
- ・「島口つこわーでー」で表彰

4 大会状況写真





島の歴史を演劇を通じて広めよう！

～歴史創作劇「えらぶの西郷さん」「前田正名と正名字」公演～

劇団がじゅまる副主宰（和泊町文化協会青年部長） 秋田 茂穂

1 はじめに

沖永良部島の島民劇団「劇団がじゅまる」は平成3年に和泊町連合青年団の有志により発足し、島の物語を中心に数々の演劇を発表させて頂いておりましたが、数年間の活動の後に約25年ほど休止状態でした。活動再開のきっかけは、平成28年のえらぶ世之主没後600周年記念です。平成4年に当劇団では、歴史創作劇「世之主」の発表をしており、当時の劇団員が島民に改めて世之主伝説を知ってもらおうきっかけにしようと、当時の劇団員を中心に新たなメンバーを加えて、平成28年11月に世之主神社下の世之主城跡野外ステージにて歴史創作劇「世之主」の再演を行いました。

これを機に、当劇団は主宰以下若手の新体制に移行し現在に至ります。

2 趣旨

- 「島の歴史を演劇を通じて広めよう！」のスローガンの元、当劇団では「えらぶ世之主伝説」「沖永良部島の日本復帰運動」「沖永良部島での西郷隆盛」などの沖永良部島では知っているけど深く知られていない歴史を題材に、島民が沖永良部島のすばらしさに気がつき、誇りを持てるように史実に基づいた創作劇をつくり伝えていく。
- 演者から裏方まで幅広い人材を抱える劇団だからこそできることを、文化協会等のイベントに、文化協会青年部として積極的に参加することで地域貢献をする。

3 概要

<自主公演の内容について>

(1) 歴史創作劇「前田正名と正名字」

脚本：夏迫 裕作・秋田 茂穂 脚色・演出：金田一 央紀

(2) 歴史創作劇「えらぶの西郷さん」

脚本：福田 健一郎 脚色・演出：金田一 央紀（Hauptbahnhof | 東京都）

(3) 劇団がじゅまるバンドと他団体とのコラボレーション企画

（コラボレーション団体）

○劇団えらぶ百物語（ダンス）

○舞勇 Beat（エイサー）



4 活動組織等

○主 宰：梶原 景之

○副主宰：林 伸悟・秋田 茂穂（事務局長兼務）

※他に製作部・美術部・舞台運営部・広報会計部・監査監事がいる。

5 活動計画（和泊町文化協会青年部行事も含む）

	行事名	場所	備考
令和6年8月	和泊町港まつり前夜祭 「文化芸能祭」	和泊町役場庁庭	和文協青年部 劇団バンド出演
令和6年9月	月見で野あしび	和泊町研修センター広場	和文協青年部 劇団バンド出演
令和6年11月	世之主野外音楽祭	世之主神社	後援イベント 劇団バンド出演
令和6年11月	歴史創作劇「えらぶの西郷さん」 「前田正名と正名字」公演	和泊中学校あかね文化ホール	自主公演
令和6年11月	生涯学習推進大会・広域文化祭	和泊中学校体育館	和文協青年部
令和7年1月	はじめましてファミリーコンサート	和泊中学校あかね文化ホール	後援イベント 劇団バンド出演
令和7年3月	花の島沖えらぶジョギング大会 「公共交通戦隊オキバスVショー」	笠石海浜公園	ヒーローショー



9月：月見で野あしび



11月：広域文化祭



3月：オキバスVショー

6 活動状況

本年度は新作の歴史創作劇「前田正名と正名字」を知名町正名字の皆さんと協力して作り上げて行くために総会前より動き出しました。これまで脚本を担当していた福田健一郎さんが数年前にお亡くなりになったこともあり、脚本も劇団員数名と劇作家の金田一央紀さんと会議を重ね作り上げました。劇団員が担当する歴史創作劇「えらぶの西郷さん」は9月より練習を開始し、正名字の皆さまが担当する歴史創作劇「前田正名と正名字」は脚本の遅れから10月より練習を始めました。公演2週間前に金田一央紀さんも来島され、2週間で2つの演劇を完成へと運んでいただきました。

その他に和泊町文化協会青年部として各種行事に参加をさせていただいたり、後援を行うイベントでの舞台運営を行いました。

7 成果と今後の課題

本年度の自主公演は初の満員を達成し、劇団がじゅまるが島民に少しずつ認知をされてきたと実感をしており、公演やYouTubeでの演劇の配信を通じて島民に島の歴史を知っていただく場になってきたと感じております。

今後の課題については、当劇団そして和泊町文化協会青年部も同じく裏方不足が公演やイベント運営に影響をしていることから、若手に向けた募集をSNS等も活用しながら行っていきたいと思います。

8 おわりに

和泊町文化協会青年部長の立場より書かせていただきますと、和泊町では文化協会所属団体の高齢化が進み、青年部への加入者が減ってきており、各種イベントの運営が厳しくなってきました。今後も所属団体の解散も出てくる可能性があります。悲観的に感じる部分がありますが、私たちが自分たちも楽しみながら運営するイベントを企画・開催することで、文化は楽しい！と思っていただけるように発信をし、今までは伝統芸能が中心だった協会に、バンドやダンスなどの若い年齢層の団体にも新たに加入していただけるように活動をしていこうと思います。当劇団をはじめ和泊町文化協会青年部も今後ともご支援・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

知名町文化協会活動について

～新型コロナウイルスからの脱却～

知名町文化協会事務局 坂井 輝喜

1 はじめに

知名町文化協会は、文化を愛する方々の思いと努力により昭和 50 年 6 月に設立され令和 7 年には 50 年という大きな節目を迎える。22 団体でスタートしたが、町内で活動する文化団体が相互に密接な連携を取り、活動の発表、相互啓発等を通じ自主的な文化活動を促進してきた。併せて町文化行政と協力し、郷土文化の振興及び町民の文化創造の気運を醸成、促進することを目的とし、現在では、舞台部門 25 団体、展示部門 6 団体の 31 団体、約 500 名の会員で活動を行っている。

今年度は事務局の担当が変わり、運営等大変ではあったが、コロナ禍以前の事業を行うことができた。

2 文化協会主催事業

知名町文化協会では、子供から大人まで幅広く参加してもらえるようなイベントを開催しています。

月 日	事 業 名	場 所	備 考
令和 6 年 5 月 25 日	第 22 回五月の祭典	あしびの郷・ちな	青年部主催
令和 6 年 7 月 27 日	第 32 回ふるさと夏祭り	旧役場横駐車場	前夜祭ステージ
令和 6 年 11 月 2 日 ～11 月 3 日	生涯学習フェスティバル	あしびの郷・ちな 町民体育館	前夜祭ステージ 展示部門
令和 6 年 11 月 30 日	知名町子ども芸能祭	あしびの郷・ちな	
令和 7 年 1 月 12 日	沖永良部音楽発表会 【中止】	あしびの郷・ちな	インフルエンザ蔓延のため中止
令和 7 年 2 月 15 日	第 27 回島唄・島ムニ大会	あしびの郷・ちな	

(1) 五月の祭典

青年部が中心となって企画・運営を行っており、今年で 22 回目の開催となった。コロナ禍は中止や制限付きでの開催を余儀なくされたが、昨年度からは制限なしで開催。今年度は 7 団体が出演。ゲストは島内で活動しているバンド「えらぶ懐メロ倶楽部」。昭和歌謡曲などを織り交ぜながら、メドレー形式で会場を盛り上げた。また、YouTube での配信も行った。令和 7 年度のゲストも乞うご期待！



(2) ふるさと夏祭り前夜祭ステージ

恒例の知名町ふるさと夏祭り前夜祭において、文化協会会場で舞台発表を開催した。コロナ禍前は複数の会場があったが、現在は商工会と文化協会の2会場のみとなり、出演者や来場者にとっても文化協会会場は欠かせないものとなっている。

今年度は11団体が出演し会場を沸かせた。ステージの設置も文化協会で実施。



(3) 知名町生涯学習フェスティバル

毎年11月初旬に2日間に渡って開催される生涯学習フェスティバルの前夜祭として、文化協会主催の舞台発表に15団体の出演があった。展示会場では、文化協会加盟団体のほか、公民館講座、各種団体及び個人の展示が行われた。



(4) 知名町子ども芸能祭

運営を青年部中心に行い、高校生以下の子ども達の出演で開催。小さい子ども達の可愛らしい元気な踊りや高校生の大人顔負けの力強い踊りや歌などで来場者を楽しませた。8団体、約70人の子どもたちが堂々と披露した。



(5) 島唄・島ムニ大会

現在消滅危機にある，大切な文化遺産，島の方言や島唄を見直し，後世に残すことを目的として開催され今年で 27 回目を迎えた。大切な方言等の継承の為に町内の学校や老人会の方々にご協力を頂き，町内各地域の方言や，歌や踊りなどの伝統文化の発表を行った。学校，育成会，放課後児童クラブ，公民館講座，個人などが出演。

3 さいごに

加盟団体の会員の高齢化が進む中で，青年部を中心に文化協会主催のイベントを運営したり，また青年部独自の主催イベント（五月の祭典）を開催するなど連携が取れている一方で，毎年恒例のイベント等がマンネリ化したり，参加者が減少しているイベント等もあったりする。若い意見と先輩方の経験を活かし，文化協会全体で知恵を出し合いながら協力し，文化協会のさらなる活性化と伝統文化の継承等へ取り組んでいきたい。

令和 7 年には，文化協会創立 50 周年を迎える。『子や孫が誇れるまちづくり』が知名町のキャッチフレーズであり，今後も子どもたちの発表の場を創出し，島の芸術文化を担っていく人材を大切に見守る文化協会でありたい。何年先も・・・

そして，コロナ禍から文化協会主催イベントなどの YouTube 配信を行ってきた。今後も，継続して発信していくので，知名町文化協会の YouTube をぜひ要チェック！

知名町文化協会 YouTube はコチラ⇒



ゆんぬエイサーの活動について

～エイサーを通じた文化の継承・世代間交流～

ゆんぬエイサー代表 裾分 大喜

1 はじめに・概要

みなさんこんにちは。私たちは与論島にあるエイサー団体「ゆんぬエイサー」です。ゆんぬエイサーは、「与論」の方言での呼び方である「ゆんぬ」と沖縄の伝統芸能であるエイサーを掛け合わせた名称で、エイサーを与論島でも踊りたいという島の青年団有志が沖縄の有名なミュージシャンである喜納昌吉さん兄弟や沖縄市の久保田青年会の指導を受け1992年に結成し、結成から33年目を迎えています。現在は未就学児から60代まで総勢70名ほどで活動しています。

ゆんぬエイサーで使用する曲は沖縄の伝統エイサーの曲や与論の民謡、島出身のミュージシャンである川畑アキラさんの楽曲など幅広く、エイサーを通じて島の文化を学ぶことができます。



[結成初期の様子]

2 団体構成

エイサーの踊り手には、大太鼓、締め太鼓、パーランクー、手踊りの4つがあり、その他に唄三線の人たちやベテランの大人の方々が主に担ってくれる盛り上げ役のチョンダラーで構成され、一般的なイベントでは20～30名程度で演舞を行います。多い時だと、今年のヨロンサンゴ祭りという島最大のお祭りでは総勢60名でパレードを行いました。なかには「本場沖縄でエイサーがしたい」と言って高校卒業後に沖縄の学校に通い、親元である沖縄市の久保田青年会に入って全島エイサー祭りなどで踊っている人もいます。

3 活動について

活動は毎週1回19:00～21:00の公民館教室と合わせての練習のほか、島内外のイベントや結婚式、修学旅行への披露等での演舞が年間20回程度あります。その他にも沖縄で何万人もの観客が訪れる沖縄最大のエイサーイベント「全島エイサー祭り」への視察研修を行い、研鑽を積んでいます。練習では指導者陣が教えるだけでなく、高校生の先輩たちが小中学生を教えるなどして世代間の交流にも努めています。

[令和6年度の主な活動]

	出演等行事名	場所	備考
令和6年5月	銀座通り感謝祭	与論町内	
令和6年8月	ヨロンサング祭り 全島エイサー祭り視察	与論町内 沖縄県沖縄市	
令和6年9～10月	小中学校エイサー指導	与論町内	
令和6年11月	ヨロンマラソン	与論町内	
令和7年1月	二十歳のつどい プリシア餅つき大会	与論町内 与論町内	
令和7年2月	与論町文化祭		
通年	公民館エイサー教室指導	与論町内	
その他	島内外イベント等への参加 クルーズ船来島セレモニー 等		

※ 例年演舞を行っているもののみを挙げています。

※ YouTubeで「ゆんぬエイサー」と検索すると演舞がいくつか出てきます。



[パレードでの演舞]

4 成果と今後の課題

ゆんぬエイサーの32年の歴史の中では常に多くのメンバーがいて順風満帆に過ごせてきたというわけではありません。過去には踊り手が数人しかおらず、練習に誰も来ない日があるようなことが何年か続いた時期もありました。当時はこのまま解散してしまうかもしれないという危機感を募らせていたのを覚えています。

それが近年は、かつてエイサーを踊っていた人の子供たちが続々と入ってきて、彼らを中心に入会希望者が増えている状況です。また、太鼓だけでなく三線にも興味を持って挑戦している子もいます。太鼓を叩きながら踊るということが彼らのストレス発散にもなっているようで、プラス要因になっているとのことです。毎週多くの子たちが練習に来てくれている風景を見ていると、苦しい時期もみんな諦めずに続けてきたのが成果として実ってきて本当に良かったなと感じます。

また、先日こんなことがありました。帰省したエイサーの教え子の20歳のお祝いに伺った時に、その子が「学校の研修でパリに行った時、現地の生徒たちにエイサーを披露したんだよ。」と嬉しそうに演舞の動画を見せてくれました。日本の文化としてエイサーを披露できたことに本人もすごく喜んでいて、きっとエイサーをやっていて良かったとその時に思ったのではないのでしょうか。我々も聞いていてとても嬉しくなった瞬間でした。

課題としては指導者・後継者不足、20～30代不足が挙げられます。与論島には高校が1校で、大学や専門学校等はなく、高校卒業までにほとんどの子が島を離れてしまっただけでそのまま帰ってこないこと、帰ってきてもエイサーに参加しなくなることが主な原因です。対応策として、彼らがエイサーとの繋がりを感じてもらうために卒業後の夏休みなどに島へ帰省している大学生等に対してイベント出演を打診して練習に参加してもらうことでエイサーの楽しさや繋がりを改めて感じてもらい、将来与論に戻ってきた時にエイサーをまた始めてもらえるように取り組んでいます。

5 おわりに

これはエイサー指導や他の文化団体の活動を見ていて私が感じる事なのですが、最近の子供たちの伝統文化に対する意識はかつてのような「ダサい、恥ずかしい」ではなく、「カッコいい、やってみたい」に変わってきていて、あとは入るきっかけ作りと門戸を開くことなのかなと思います。ですので、まずは今いるメンバーでしっかり楽しんで、楽しんでいる姿を披露する機会を多く持ち、「楽しそうだな」と興味を持ってもらうことが必要かなと思っています。私達もですが、自分たちだけの活動で満足して他が入りづらい雰囲気を作らず、めんどくさいと思わず、めいっぱい楽しそうに活動し、楽しいを伝えていけるようにみんなで取り組んでいければと思います。

みなさん、仕事や家庭が忙しくてなかなか活動は大変だと思いますが、もうひと踏ん張り。「我った一まーじんきばらんどー！（みんなと一緒に頑張りましょー！）」